

作成（2024 年度）

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	洪 恵媛
所属機関名	生物地球学部 生物地球学科
職位	講師
在籍年	3 年

教育の責任

・座学系：考古学概論Ⅱ(学部 2 年春)、日本考古学(学部 2 年春)、東アジア考古学(学部 3 年秋)など

・実習系：考古学実習、野外博物館実習、野外調査方実習など

基本的に考古学に関する理解や専門知識を深めることを目的に授業を行い、生涯的にも考古学資料に関心を持つことができるように授業を進めている。

実習系の授業は直接手に触れることが重要な考古学なので一番活用できる授業であり、学生たちと距離を縮める機会としても活用している。また、専門職を目指している学生たちの訓練のためにも授業な授業である。

教育の理念

大学は成人になっている学生たちが社会に出る準備ができる期間だと思う。そのため成人として、社会人として試行錯誤ができる期間でもあるので、その時期をサポートすることが重要だと思っている。そのためになるべく学生たちと会話をする機会をもち、自らの声、意見を聞くことを重要視している。ただ、ゼミや実習を除く座学の場合、なかなかそういう機会を持つことができないのが難しいところである。また、考古学はチーム作業が重要であるため、チーム員としての練習、人間関係の練習もできる。発掘調査や考古学プロジェクトを通して、チームプロジェクトの方法や過程などを色々教えている。

また、考古学という学問に関して興味を持ってくれること、そして正しい理解をしてほしい。考古学自体が文化財や歴史を扱う学問でもあるため、大学での教育だけでなく、生涯学習的な観点からもずっと頭や心に残るような授業を目指している。

教育の方法・方針

実習以外の授業は全て座学で人数も多い。生物地球学科の特性上、多様な分野に興味がある学生が多いため、なるべく知っている概念や知っている分野を取り組んで説明する。授業資料は写真や図面などたくさん活用している。授業終了後は当日の講義資料をアップロードすることで復習ができるようにしている。事前に配布しない理由は授業にもっと集中できるようにするため。

毎回の授業では出席カードを作成してもらっている。出席自体は成績に反映できないが、授業態度などを重視したい。出席カードを作成することで、学生たちが授業をどう理解して、どの部分が印象に残っているのかが把握できる。また授業内容と異なる理解をしている場合も結構あり、学生たちがどう理解していたのかが把握できる。異なる内容で理解した場合、次の授業でもう一回説明しながら訂正ができる。また、難易度や興味を持ってくれる素材などの把握もしやすいため、毎回、そして毎年授業の内容をアップグレードできる。

実習系の授業の場合は個人のスキルアップの観点も重視するが、コミュニケーションを積極的に取りながら学生たちの傾向を把握することになっている。TA も一緒にいるので楽しい感じ

で気軽に会話を混ぜながら実質的な授業と訓練ができるようにしている。

教育の成果

授業資料に写真・図面などが多くて理解しやすかったというフィードバックがあった。

大体名称や概念に関して聞いたことはあったが詳しく知らなかった部分に関して、授業を通して詳しく知ることができてよかったというフィードバックがあった。

出席カードを確認してみたら、私の説明と違う理解をしていることを把握できたので、次回の授業で改めて説明することができた。またシャイな性格の学生が授業中や対面ではなかなか質問できなかったが、出席カードを通してできることも結構あった。

「日本考古学」科目に関しては外国人の先生が説明してくれるのが新鮮だったというフィードバックもあった。

今後の目標

授業の人数が多いため、なかなかディスカッションを持つことができないが、なるべく自分の声でも発信できる授業の形を工夫していきたい。その一環で3年次以下の学生もゼミに参加できる頻度を増やしたい。

また、考古学コースを志望する学生や真剣に考古学専門職を目指す学生が増えること、大学院に進学して考古学研究者として活躍する学生を増やすことを目標にしたい。

根拠資料

- ・ 授業アンケート
- ・ 授業資料
- ・ 出席カード